

➤ 「自分仕様」を実現するレンズの素材とコーティング

かつては、眼鏡のレンズといえばガラス製レンズが主流でした。ここ最近ではプラスチックレンズがほとんどです。現在では、ガラスレンズの販売比率は5パーセント以下まで落ちてきているようです。

屈折率などの光学特性や硬さの面ではガラスレンズが勝り、軽さや加工・染色のしやすさではプラスチックレンズが勝るとされてきました。しかし、コーティングの技術が発達してプラスチックレンズの表面もずいぶんと丈夫になり、いまではガラスレンズと遜色ないようです。

コーティングとは、使用者が快適な視界を実現できるように、レンズの表面に薄い膜をつけることです。種類によってレンズに傷をつけにくくする、反射を防ぐ、汚れにくくするなどの用途があります。ここ30年ほどで発達した技術です。

眼に有害といわれる紫外線をカットするコーティングは、いまやすっかりポピュラーとなりました。紫外線は晴れの日も曇りの日も太陽からふりそそぎ、日焼けの原因となるばかりでなく、皮膚がんとの関係も問題視されています。また、地面（特に砂浜や雪）からの反射も強いので、屋外で使う眼鏡はUVカット・コーティングをするとよいでしょう。

その他、プラスチックレンズを傷つきにくくするハードコート、汚れやほこりをガードするコーティング、傷や熱の耐性を向上させるコーティング、第1章で述べたブルーライトをカットするコーティング、色をつけるカラー染色、乱反射をカットする偏光レンズなど、自分の好みで変えることができます。

プラスチックレンズが熱に弱いのはかつてから変わりません。熱源のそばで作業をする人などは、依然としてガラスレンズを選ぶ傾向にあるようです。

POINT

「コーティングなどの「オプション」によって「自分だけ」の眼鏡が実現できる